

連合駿台会報

No.349 令和2年1月15日発行
発行・編集 連合駿台会

発行人 広報委員長・齋藤柳光
編集人 事務局・矢嶋まゆ子
〒101-0052千代田区神田小川町三十二
明治大学「紫紺館」内
電話 (〇三) 三二九六一四七七
印刷 有限会社 美創

大学と手を携えて… 謹賀新年 — 創立一四〇周年へ —

連合駿台会
会長
田村 駿



会員の皆様におかれましてはご家族おそろいで健やかな新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

昨年は皆様の絶大なるご支援・ご協力により当会事業運営は、お陰様で順調に推移しましたこと、心よりお礼申し上げます。

まず今年は、東京オリンピック・パラリンピックの年、現役、OBを含め明大生が大いに躍動し、日本中に元気をもたらすことを期待したいと思います。

昨年の日本は、新天皇即位、令和改元、ラグビーワールドカップベスト8、消費税10%、西日本、東日本を襲った集中豪雨、超大型台風、長雨などの自然災害による大被害、そして世界文化遺産の首里城消失、日韓関係の悪

化、安倍首相在職日数歴代最長記録などニュースには事欠かない一年でした。

海外では、米朝非核化の目新しい進展がなく、米中経済貿易摩擦が世界経済を揺るがし、香港大規模デモで民主化が叫ばれ、そして世界文化遺産のノートルダム寺院が消失するという大惨事がありました。

当会の昨年を振り返りますと「大学支援のあり方検討委員会」より答申を受け、ホームカミングデーで商学部と共催の「学生対抗プレゼン大会」に経営学部が加わり、商、経、当会の共催で初めて行われました。三十八チーム参加、優れた内容には、優秀賞、敢闘賞を表彰し、賞状、副賞を授与しました、また、英語によるプレゼンも初めて実施、当会

の英語通の二人に審査して頂きました。さらに、明大広報紙に学外では初めての支援広告を九月号から掲載、奇数月で年六回の掲載予定です。中でも一月、九月は募金特集号ですので三十数万部と大変な発行部数です。当会の知名度を上げるためのPR効果を大いに期待したいところです。

次に、当会の前身、若水クラブから数えて、昨年六十五周年を迎えましたが、これを機に連合駿台会の結束力をさらに深めようとバツジを山田朝彦当会常任理事（日展理事）にお願いして制作しましたので、少なくとも例会には胸を張って付けて頂きたいものです。

今年度は、①明大広報の支援広告の内容充実 ②校友会との連携による大学支援について検討、を課題としたいと考えています。

母校は、今年校歌誕生一〇〇周年となることから二〇二一年の創立一四〇周年と校歌誕生一〇〇周年を掛け合わせ、記念式典当日までの一年間で、校歌を学生、教職員、父母、校友等に親しんでもらうことを計画、また創立一四〇周年記念事業の一つとして和泉キャンパス新教育棟建設を推進しております。

当会は、今年も大学支援を柱に、次回も是非参加したいといわれる例会を目指したいと考えておりますので、今後ともご意見、ご提案をお寄せ頂きたいと思っております。

会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



連合駿台会の皆様と共に創立一四〇周年へ

学校法人明治大学
理事長
柳谷 孝



二〇二〇年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。連合駿台会の皆様には、昨年も学術賞・学術奨励賞や学生対抗プレゼンテーション大会、フューチャースキル養成講座をはじめ、本学に対し多大なるご理解とご支援を賜っており、学校法人を代表し厚く御礼を申し上げます。また、例会に出席するたび各界の第一線で活躍する多くの新会員との出会いがございました。会の発展と活性化に向けた田村会長や役員の皆様方のご尽力の賜物と存じます。重ねて御礼を申し上げます。

さて、二〇一九年を学校法人経営の視点で振り返りますと、新たな施設整備がスタートした年となりました。三月には、海外からの受入留学生と地方出身の日本人学生が共に生活し学ぶ場として、二百十六名入居可能な国際混住寮「明治大学グローバル・ヴィレッジ」が竣工いたしました。おかげさまで満室であり、多様な学生達による国際コミュニティが形成され、新しい交流の姿が見られるようになりました。

さらに、アクティブラーニングをはじめ学生の主体的な学びを育む新校舎「和泉新教育棟」の実施設設計も完了し、七階建てで約一万

二千平米の規模で、この三月に着工いたします。

このような取り組みが動き始めましたのも、二〇一八年度決算で企業の純利益に相当する「基本金組入前当年度収支差額」が、前年度より約五億円プラスの十九億二一〇〇万円となったことが大きな支えとなりました。その要因としては、前理事会より取り組んでいた支出の抑制を今理事会も引き継いで、水光熱費等のコスト削減を進めたことに加え、学費改定・収容定員増等の収入基盤の整備や、三年連続で志願者が十一万人を越えたことが挙げられます。ただし、他大学と比較しますとまだ低い水準でありますので、今後財政基盤の安定・強化に向けた取り組みを進めてまいります。

ところで、本学の創立一四〇周年もあと一年へと近づいてまいりました。一四〇周年の実行委員として田村会長に参画いただき、一月一日に記念式典を挙げることを決定し、周年事業の各種プロジェクトの具体化も着々と進んでいます。あわせて、記念事業を支える「創立一四〇周年記念事業募金」も昨年九月に開始しました。今回の募金では、和

泉新教育棟の椅子や教室の入口に、寄付者のお名前を刻印したプレートを設置するなど新しい顕彰制度を用意しております。こうした「寄付の見える化」も一層進め、記念事業募金賛同への機運を高めてまいりますので、連合駿台会の皆様も是非ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、創立一四〇周年の二〇二一年は現在の長期ビジョンの最終年度であることから、今年はその長期ビジョンの策定に取り掛かる大変重要な一年でもあります。従って創立一四〇周年記念事業は、一五〇周年をも見据えたものとなります。昨年まとめられた教学の「ブランドデザイン二〇三〇」に基づいて学校法人として長期ビジョンをまとめますが、学生達の学ぶ環境整備を更に加速させるべく経営と財政の見通しを立て、創立一五〇周年も視野に力強く発展できる基盤を創り上げてまいります。

結びになりますが、連合駿台会の皆様には本年も変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員各位のご活躍とご健勝を心より祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。



明治大学を共創的未來へと前進させるために

明治大学
学長
土屋 恵一郎



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。学長の任期も残すところあとわずかとなりました。この四年間で、教育、研究、共により一層飛躍することができたと実感しています。

教育の面では、文部科学省・平成28年度（二〇一六年度）「大学の世界展開力強化事業」に採択されました。CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）における経済成長のプロセスに、日本の教訓をどう生かしていくかということがテーマです。これまで明治大学が取り組んできた国際戦略が実を結んだと言えます。

研究面においては学長就任以来、研究型大学への転換ということを行い続けてきました。昨年八月には「明治大学再生可能エネルギー研究インステテュート」と「明治大学生命機能マテリアル国際インステテュート」という理工学部の教授を所長とする二つのインステテュートが設置されました。昨年末には農学部部長嶋比呂志教授による人工多能性幹細胞（iPS細胞）を使ってブタの体内で人の膵臓をつくる研究計画が大きく報道されたように、農学部における研究も非常に大きく実りのあるものになってきています。明治大学には医学部はありませんが、こ

うした医学系、生命科学系の研究が高い注目を集め始めています。将来、明治大学が研究型大学となっていく姿が示されてきたのだと感じています。

また、二〇一七年一月に「人権と平和を追求する明治大学」という広告を全国紙に出しました。非常に反響があり、「権利自由」「独立自治」という建学の精神に立ちながら、今の時代に大学のあるべき姿をアピールできたと思っっています。二〇一八年には「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を発表しました。これらは、他大学でも同じように取り組んでいることですが、明治大学ほどこのことを強く押し出した大学はなく、明治の個性が非常に活きたと言えます。具体的な取り組みとして、男女共同参画・障がい者少数者支援担当副学長を新たに置き、障がいのある学生への支援、多様な性に配慮した施策、女性研究者支援などを行ってきました。多様性に開かれた大学であるということがこの四年間の中ではっきり示すことができました。さらには、昨年末には「グランドデザイン二〇三〇」を発表しました。これは二〇三一年の本学創立一五〇

周年を見据え、建学の精神、理念、本学の使命を再確認すると同時に、教学における十年後の将来像（ビジョン）と、それを実現するための重点施策を示すものと位置づけています。コンセプトは、明治大学創立一四〇周年記念事業コンセプトにもなっている、「前へ—『個』を磨き、ともに持続可能な社会を創る—」です。建学の精神を体現した人材の育成と、知の創造を通して共創的未來へと前進させるために、五つの領域で全学ビジョンを定めています。

私はこの三月で学長の職から身を引くわけですが、この四年間を振り返ってみますと理事長をはじめとする法人と大学の関係が良好であった四年間でした。明治大学の歴史を振り返ってみると、必ずしもそうでなかった時期もあったので、次の四年間も同じように法人と教学が共に手を携えて、明治大学の存在感を高めていただきたい、そう願っております。

結びにあたり、連合駿台会のみますますのご発展と会員各位のご多幸を祈念いたします。新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年



株式会社新都心エージェンシー

代表取締役

安達 明正

〒160-0023 新宿区西新宿六-六-一三
新宿国際ビルディング新館八F
TEL 三三四五-七六八二
FAX 五三三三-七七六五

足立会計事務所

税理士 長 足立 吉松

〒410-0832 静岡県沼津市御幸町二四-一三〇
TEL 〇五五-九三二-六三九一
FAX 〇五五-九三四-〇二二五

株式会社エービーコーポレーション

代表取締役 長 阿部 倫明

〒980-0004 仙台市青葉区宮町三-八-一三三
TEL 〇二二-二一七-〇〇三三
FAX 〇二二-三九三-八二七七

明治大学評議員
連合駿台会顧問

有賀 隆治

〒105-0001 港区虎ノ門一-二-一〇一六〇一
TEL & FAX 三五八-一七七八〇

株式会社ニチレイフーズ

取締役会長

池田 泰弘

〒104-8402 中央区築地六-一-九-二二〇
ニチレイ東銀座ビル
TEL 三三四八-二二二二
FAX 三三四八-二二四〇

SMB C日興証券株式会社

副社長 執行役員 石井 仁

〒100-6524 千代田区丸の内一-五-一
新丸の内ビルディング
TEL 三二八三-六七七七
FAX 三二二二-五二六九

税理士法人あい&ゆう税務会計事務所

代表社員 税理士 石橋 良一

〒142-0022 品川区二葉二-二四-九-一〇一
TEL 三七八三-一七一
FAX 三七八三-一七五

三八五流通株式会社

専務取締役

泉山 和久

〒039-1189 青森県八戸市長苗代上中坪三五-一
TEL 〇二七八-二七-四一四一
FAX 〇二七八-二七-一五〇九

明治大学評議員
明治大学校友会相談役

岩田 守弘

〒520-0052 滋賀県大津市朝日が丘一-一四-六
TEL & FAX 〇七七-五二六-〇八〇二

株式会社チユチュアンナ

代表取締役 長 上田 利昭

〒536-0015 大阪府城東区新喜多一-二-一七
TEL & FAX 〇六一六-九三六-一三三二

学校法人明治大学

理事 大原 幸夫

〒101-8301 千代田区神田駿河台一-一
TEL 三三九六-四〇〇〇
FAX 三三九六-四三二八



大学と校友の皆様のかけ橋となります。
本年もよろしくお願いたします。

(株)明大サポート (明治大学外郭事業会社)

設立 1996年1月22日
〒101-8301東京都千代田区神田駿河台1-3-1
明治大学大学会館地下1階
Tel:03-5280-1500 Fax:03-5280-1505
ホームページ<http://www.meidai-support.com>



明サポ情報満載

明大サポート公式アプリ



ペップ・メイツ株式会社

代表取締役
大前実之

〒103-0011 中央区日本橋大伝馬町一四一〇一四F
TEL 三六六三二八八二七
FAX 三六六三二八八二八

安全と信頼の警備
タイヨー株式会社

最高顧問
大村託現

〒124-0023 葛飾区東新小岩五〇八一一二
TEL 五八七五七三三三〇
FAX 五八七五七三三六〇
タクミビルニF

株式会社アマダホールディングス

代表取締役兼CEO
岡本満夫

〒259-1196 神奈川県伊勢原市石田二〇〇
TEL 〇四六三一九六一一一
FAX 〇四六三一九六一三三

富士建物管理株式会社

代表取締役
長田宇功

〒190-0021 東京都立川市羽衣町三二八一一
TEL 〇四二二五二四一六五一一
FAX 〇四二二五二四一六五一一

株式会社カナエ

代表取締役
金子圭太

〒105-0013 港区浜松町二一一〇一ニ
TEL 三三三三二一五四一〇
FAX 三三三三二一五四一〇
カナエ本社ビル

株式会社ホテルグランパレス

代表取締役
河村博

〒102-0072 千代田区飯田橋一〇一〇一
TEL 三三六四一〇一〇一
FAX 三三六四一〇四九六

木下サーカス株式会社

代表取締役
木下唯志

〒700-0822 岡山市北区表町三二二二二
TEL 〇八六一三三一一〇四一一
FAX 〇八六一三三一一四九七二

野村不動産ホールディングス株式会社

代表取締役社長
沓掛英二

〒163-0566 新宿区西新宿一〇二六二二
TEL 三三四八七七八〇五
FAX 三三四三三〇四四五
新宿野村ビル

日本電子株式会社

代表取締役兼CEO
栗原権右衛門

〒196-8558 東京都昭島市武蔵野三一一二二
TEL 〇四二二六四三一一一一
FAX 〇四二二六四三一一一一
<http://www.jeol.co.jp>

ユニテッドプロダクションテクノロジーズ株式会社

代表取締役
古賀慎一郎

〒162-0843 新宿区市谷田町二一三七
TEL 三三三六〇一五三二六
FAX 五二六一一七〇八五

日本共同株式会社グループ
城南不動産販売株式会社

代表取締役
小島清治

〒141-0022 品川区東五反田二二二〇一四
TEL 三三四四一〇一三二
FAX 三三四四一〇一三二
(携帯) 〇九〇一三三三七一四三三三

東神興業株式会社

社主
根田哲雄

代表取締役
根田吉雄

明治大学マスコミクラブ

常任顧問
齊藤柳光

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町九四五
TEL 〇四八一六四四一〇〇八五
FAX 〇四八一六四四一〇〇三〇六

株式会社HEXEL Works(ヘクスルワークス)

取締役兼
執行役専務
坂本孝行

〒105-0012 港区芝大門一〇一三〇
TEL 五五〇四一六七六一
FAX 五五〇四一六七一一

学校法人明治大学 監事
連合駿台会副会長

佐藤健

中小企業診断士

総合物流をはじめとする多彩なサービスを
“お客様のご満足”と“安全”をモットーに
提供し続ける会社、それがアサガミです

 **アサガミ株式会社**
ASAGAMI

本社：東京都千代田区丸の内3-1-1
TEL(03)6880-2200 FAX(03)6880-2230
<http://www.asagami.co.jp/>

<p>株式会社シテイハウジング</p> <p>代表取締役 会長 佐藤 仁</p> <p>〒144-0034 大田区西糞谷四一二八一―一八 TEL 三七四二一七六〇七 FAX 五七〇五―八〇九七</p>	<p>片倉工業株式会社</p> <p>代表取締役 会長 佐野 公哉</p> <p>〒104-8312 中央区明石町六一―四 TEL 六八三二―一八七三</p>	<p>創業昭和五十六年 東都ゴルフ株式会社東都ジャパン</p> <p>代表取締役 杉浦 伸二</p> <p>〒103-0027 中央区日本橋三―八一―一〇 TEL 三二八一―〇八〇一 FAX 三二八一―〇八九〇</p>	<p>隼あすか法律事務所</p> <p>弁護士 鈴木 銀治郎</p> <p>〒100-6004 千代田区霞が関三―二一―五 TEL 三五九五―七〇七一 FAX 三五九五―七二〇六</p>	<p>株式会社日本カーゴエクスプレス</p> <p>代表取締役 鈴木 隆志</p> <p>〒105-0003 港区西新橋一―二〇―一九 TEL 五二五一―一〇二一 FAX 五二五一―一〇一〇 http://www.jcexp.co.jp</p>
<p>北斗産業株式会社</p> <p>代表取締役 園田 英次</p> <p>〒520-3252 滋賀県湖南市若根六七八―一五五九 TEL 〇七四八―七五―八四一 FAX 〇七四八―七五―八四一</p>	<p>合同会社高澤ビジネスアソシエーツ</p> <p>代表 高澤 徹</p> <p>〒240-0006 横浜市長谷区星川二―六一―一三三三 TEL&FAX 〇四五―三三六―四九七〇 (携帯) 〇九〇―二七五七―一六一〇 E-mail: takazawa@illy.ocn.ne.jp</p>	<p>ダイヤナ株式会社</p> <p>代表取締役 社長 高橋 郁夫</p> <p>〒150-0001 渋谷区神宮前一―八一―六 TEL 三四〇五―四〇〇一 FAX 三四七九―八〇一四</p> <p>学校法人明治大学評議員</p>	<p>学校法人新潟大原学園</p> <p>理事 校長 高橋 淑浩</p> <p>〒950-0086 新潟市中央区花園一―三―三 TEL 〇二五―二四六―八八八 FAX 〇二五―二四六―一八八</p>	<p>ユニバーサル企業株式会社</p> <p>代表取締役 田代 恭一</p> <p>〒104-0045 中央区築地五―三―三 TEL 六二六四―七七一〇 FAX 五五五〇―三七七</p>
<p>連合駿台会</p> <p>会長 田村 駿</p> <p>〒154-0012 世田谷区駒沢二―四三―三 TEL 〇九〇―四三七〇―五三三二 FAX 三三二二―一〇八三</p> <p>北野建設株式会社顧問</p>	<p>明治大学金融紫紺会</p> <p>副会長 当山 明彦</p> <p>〒101-8301 千代田区神田駿河台一―一 (中村真理子研究室内)</p>	<p>徳丸織物株式会社</p> <p>代表取締役 徳丸 平太郎</p> <p>〒335-0001 埼玉県蕨市北町三―一五―四 TEL&FAX 〇四八―四四三―二〇五〇</p>	<p>株式会社ナガセインテグレッタス</p> <p>代表取締役 社長 長瀬 幸泰</p> <p>〒501-2697 岐阜県関市武芸川町跡部二―三三―一 TEL 〇五七五―四六―三三三三 FAX 〇五七五―四六―三三二五</p>	<p>中根税務会計事務所</p> <p>税所 理事長 中根 武</p> <p>〒170-0003 豊島区駒込一―二二―一六 レジデンス六義園一F TEL 三九四五―八五九四 FAX 三九四五―八五四一</p>

小山修平公認会計士事務所

小山 税 理 士 法 人

法人税、所得税、相続税、贈与税、資金調達、会社の再生、事業計画、
相続対策など3人の税理士と職員がサポートします。

〒342-0056 埼玉県吉川市平沼263番地
Tel 048(982)0360 Fax 048(982)0339
E-mail: koyamaac@titan.ocn.ne.jp
<http://www.koyamaac.jdlibex.jp>

経営革新等支援機関
20130118 関東第3号
及び関財金1第57号

電子申告
ダイレクト納付
もやっています



株式会社ナガホリ

会長 長堀守弘

〒110-8546 台東区上野一―一五―一三
TEL 三三三六―四七―一三
FAX 三三三五―〇八―一五

株式会社ナミキ

代表取締役 並木洋一

〒175-0094 板橋区成増三―一―二二―一
TEL 三三三九―〇〇―二八
FAX 三三九七―五〇―五六

公益財団法人新聞通信調査会

理事長 西澤豊

〒100-0011 千代田区内幸町二―二二―一
日本プレスセンタービルF
TEL 三五九三―一〇―八一
FAX 三五九三―一一―二八二

西山商事株式会社

代表取締役 会 長 西山武夫

〒201-0004 狛江市岩戸北四―一九―一二
TEL 三三八〇―一四―二〇
FAX 三三八〇―一四―三六五

株式会社ビッグKテニス

代表取締役 畠中君代

〒177-0054 練馬区立野町三〇―一―〇
TEL 三九二八―一一―二二
FAX 三九二八―一一―二三
明治大学校友会杉並区地域支部長

ネットトヨタ水戸株式会社

取締役 長 幡谷公朗

〒310-0851 水戸市千波町一九八八
TEL 〇二九―二四―一三―二二
FAX 〇二九―二四―三二―六四四

株式会社バンダイロジナル

代表取締役 社 長 馬場範夫

〒124-8585 葛飾区東四つ木四―四二―一五
TEL 三六九五―五二―六一
FAX 三六九五―五二―六〇

岡部株式会社

取締役社長 廣渡眞

〒131-8905 墨田区押上二―一八―一二
TEL 三六二四―一五―一一
FAX 三六二二―一六―七一

フジ企画株式会社

代表取締役 藤代耕一

〒221-0021 横浜市神奈川区子安通一―二三―一六
TEL 〇四五―四三―三三―〇一
FAX 〇四五―四三―三三―〇六〇

辨護士

堀越孝

株式会社プライムピットイン

副理事長 松崎優子

〒279-0011 千葉県浦安市美浜三―一九―一四
TEL 〇四七―三八―一五―五〇五
FAX 〇四七―三八―一五―五〇六

株式会社松本商会

代表取締役 社 長 松本伸一郎

〒354-0021 埼玉県富士見市鶴馬三―四六―八
TEL 〇四九―二五―一〇―六一
FAX 〇四九―二五―一八―八〇〇

高野山真言宗妙智山歆成院名誉住職
宗教学法人 大倉山アソカ幼稚園園長

摩尼和夫 (僧名之 法)

〒222-0037 横浜市港北区大倉山二―一八―一七
TEL 〇四五―一五―三一―二〇―五四
FAX 〇四五―一五―三一―四一―一四

学校法人松商学園

理事長 丸山律夫

〒390-1295 長野県松本市新村二〇九五―一
TEL 〇二六―三一―四八―七二―〇七
FAX 〇二六―八―四八―七二―九七

ハードプロテクト株式会社

代表取締役 会 長 宮下隆

〒170-0005 豊島区南大塚三―三三―一〇
TEL 五九五〇―一六―六五一
FAX 五九五〇―一六―六五二



『防水と屋上を総合的にプロデュースする』

総合防水材料メーカー

日新工業株式会社

〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号

TEL 03-3882-2424

代表取締役社長 相臺 志浩



ミズ太郎

<p>学校法人明治大学 理事長 柳谷孝 〒101-8301 千代田区神田駿河台一― TEL 三三九六―四〇〇〇 FAX 三三九六―四三三二</p>	<p>株式会社大同 代表取締役 村山友彦 〒100-0014 千代田区永田町二―四一―一 フレンドビル六F TEL 三五八〇―一三四四七</p>	<p>明治大学校友会 名誉会長 村山富市 〒870-0033 大分市千代町三―二―二 TEL & FAX 〇九七―五三二―〇〇三三</p>	<p>株式会社ヴィド・フランス 代表取締役社長 村上知義 〒134-0088 江戸川区西葛西六―一九―六 PAN科学館2F TEL 五六七九―八四二― FAX 五六七九―八四二二</p>	<p>ダイニチグループ 代表取締役 六井元一 〒279-002 千葉県浦安市北栄一―一六―三 DNプラザビル TEL 〇四七―三五四―〇一三三 FAX 〇四七―三五四―〇一三九 http://www.dainichi.co.jp</p>
<p>代表税理士 山端康幸 税理士法人東京シテイ税理士事務所 〒163-0433 新宿区西新宿二―一―一 新宿三井ビル三三F TEL 三三四四―三三〇一 FAX 三三四四―九〇五三 E-mail:yamahata@tokyocity.co.jp</p>	<p>株式会社日本金属工業研究所 取締役会長 彫刻家 山田朝彦 〒113-0023 文京区向丘一―六―一―二 TEL 三八二―一七七〇九 FAX 三八二―三〇〇〇三</p>	<p>株式会社不二家 代表取締役会長 山田憲典 〒112-0012 文京区大塚二―一―五―一六 ニッセイ音羽ビル TEL 五九七八―八二二三 FAX 五九七八―八六三三</p>	<p>明治大学評議員会 議長 山口政廣 〒273-0047 千葉県船橋市藤原七―一―四―二〇四 TEL & FAX 〇四七―四三八―八六三五</p>	<p>株式会社やまたけ 代表取締役社長 山口大介 〒123-0841 足立区西新井五―一三五―一―三 TEL 三八九九―三七三七 FAX 三八九九―四六七二</p>
			<p>桜神宮 宮司 芳村正徳 〒154-0014 世田谷区新町三―二―一―三 TEL 三四二九―〇八六九 FAX 三四二九―七四五二</p>	<p>金魚の吉田 株式会社ヨシダ 代表取締役 吉田信行 〒124-0023 葛飾区東新小岩五―一―四―一七 TEL 三六九四―一三七五一 FAX 三六九四―一三七五二</p>

船用照明器具・船用配線器具・船用信号器具・船用配電盤
ヘリコプタ着船援助器具・高耐水性照明器具
ISO 9001:2008認証工場

— 信頼と実績に応え、未来に挑戦する集団 —

 **大石電機工業株式会社**

代表取締役社長 大石 哲也 昭和63年工学部卒業
〒140-0011 東京都品川区東大井2-17-9
TEL 03-3761-2166 (代表)・FAX 03-3761-4851
<http://www.ohishi-denki.co.jp>

連合駿台会十一月例会

「宇崎竜童 弾き語りライブ2019」

音楽家 宇崎 竜童氏

連合駿台会恒例の一足早い忘年例会が、十一月二十日（水）十七時三十分より、明治大学紫紺館で、百八十名近くの多くの参加者を集めて宇崎竜童さんの弾き語りライブとして開催されました。

当日のトークと曲目は以下の通りです。

*



オープニングは「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」

いまロックンロールハートツアーというものを開催中で、府中からスタートして、いろいろ巡回して、最後は東京国際フォーラムになる。明日からは札幌、函館と回るようになっているので、今日はこのライブが終わったら羽田空港に直行して札幌に飛ぶ。その後は米倉涼子さん主演の『ドクターX』に、出演することになっており、アイドル並みの忙しさである（笑）。

二曲目は大河ドラマ『獅子の時代』（一九八〇年、主演・菅原文太）の主題曲「OUR HISTORY AGAIN」

音楽活動を始めて、今年で四十六年になる。その間に様々な方にも曲を提供してきたが、中でも山口百恵さんの存在は大きく、彼女が十七歳から二十一歳までの四年間で六十八曲書かせていただいた。後にも先にも、一人のシンガーに六十曲以上ということはあり得ないことだと思う。

三曲目は、山口百恵さんが十七歳の時に唄った「イミテーションゴールド」

『ドクターX』にはロックンローラーの「患者」役で出演するわけだが、もともと役者もやることになったきっかけは、僕がやっている店に深作欣二監督と菅原文太さんが訪ねてきて、映画に出演してくれないかと依頼され

たことだった。銀行強盗の映画という話だったが、その後、何の音沙汰もなくなり、それからしばらく経って、文太さんが一人であらして、あの話はなくなったが、その代わりに、愛川欽也さんと一緒に映画をやることになったと……。それが『トラック野郎』。ダウンタウンブギウギバンドのメンバーもガソリンスタンドの店員役で出演することになり、映画の中でも、ステージ衣装であるつなぎを着

【講師略歴】

宇崎竜童（うざき・りゅうどう）

東京都出身。一九七三年にダウン・タウン・ブギウギ・バンドを結成しデビュー。「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」「スモーキン・ブギ」など数々のヒット曲を生み出す。作曲家としても多数のアーティストへ楽曲を提供。阿木燿子とのコンビで、山口百恵へ「横須賀ストーリー」「プレイバックpart2」など多くの楽曲を提供、山口百恵の黄金時代を築いた。一九七六年内藤やす子の「想い出ほろぼろ」で日本レコード大賞作曲賞受賞。映画音楽では「駅—STATION」（東宝・一九八一年）、「社葬」（東映・一九八九年）などで日本アカデミー賞優秀音楽賞受賞。舞台音楽では「ロック曾根崎心中」「天保十二年のシェイクスピア」（二〇〇六年）で読売演劇大賞優秀スタッフ賞を受賞。阿木と共に力を注いでいる「AV曾根崎心中」では音楽監督を務めている。ライブ活動、俳優等で幅広く活動中。二〇一九年阿木燿子と共に岩谷時子賞特別賞受賞。

た。文太さんのトラックがスタンドに入ってきたら、僕は『桃次郎さん（菅原の役名）、マブイスケを乗せていますね』と口にする。セリフはそれだけ。映画初出演だったので、もっと気のきいたセリフを言いたかった、と思いつく（笑）。

四曲目はその時の主題歌「一番星ブルー」

五曲目は日本レコード大賞作曲賞を受賞した内藤やすこさんの「想い出ほろぼろ」

六曲目は、資生堂化粧品夏のキャンペーン・ソング（七七年）で使用されたダウン・タウン・ブギウギ・バンドの名曲「サクセス」

七曲目は「天晴れヴギメドレー」

最後は、宇崎氏の弾き語りライブの定番ともいえる「さよなら向こう側」で、大盛況のうちを終了しました。

◆新入会員の紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。（敬称略・到着順）



ぬまた ひろふみ
沼田 裕紀
昭和六十年・商学部卒
（株）新井組
取締役管理本部長
東京都大田区在住



くろだ しゅんぺい
黒田 俊介
昭和六十一年・法学部卒
（株）電通東日本
取締役コーポレート局長
神奈川県横浜市在住



くぼ さとし
久保 聡
昭和六十年・政経学部卒
北野建設（株）
執行役員人事本部長兼CSR推進室長
千葉県千葉市在住



わたべ さとむ
渡部 さとむ
昭和六十三年・政経学部卒
（株）Financial Digital Solutions
代表取締役副社長
東京都三鷹市在住

◆明大ニュース

●次期学長候補に大六野教授（政経）を銓衡

副学長候補には渡邊教授（理工）を選出
明治大学連合教授会は二〇一九年十二月十日、次期学長候補として、政治経済学部教授の大六野耕作氏を銓衡した。現明治大学長が、二〇二〇年三月三十一日をもって任期満了となることを受け、学校法人明治大学寄附行為施行規則第五条の規定に基づき銓衡したものの。

今後、評議員会の承認を得て、理事長が任命する。就任予定日は二〇二〇年四月一日

で、任期は四年。なお副学長候補には、理工学部教授の渡邊友亮氏が選出された。

副学長のうち一名は、副学長に関する規程第三条に基づき、学長候補が副学長候補を指名することとなり、学長候補の銓衡と併せて選出され、理事会で任命される。

大六野 耕作（だいろくのこうさく）

一九七七年明治大学法学部卒業、一九八二年明治大学大学院政治経済学研究所博士課程単位修得退学。一九八二年明治大学政治経済学部助手、一九九五年同教授。副学長（国際交流担当、学長室専門員長）、政治経済学部長など歴任。六十五歳。（比較政治論）
渡邊 友亮（わたなへともあき）
一九九六年明治大学理工学部卒業、二〇〇一年東京工業大学大学院・総合理工学研究科博士課程修了。二〇〇七年明治大学理工学部准教授、二〇一二年同教授。国際連携本部副部長など歴任。博士（工学）。四十七歳。（無機材料化学）

●「明治大学アカデミックフェス二〇一九」を開催

魅力ある社会をつくるための明治大学の次の一手を発信し、新しい「知」のあり方を探る「明治大学アカデミックフェス二〇一九」が十一月二十三日、駿河台キャンパスを会場に開催された。三回目となる今回は、学生、

研究者ら一〇〇人以上が来場。同時間帯に複数のテーマでデイスカッションが催されるなど、明治大学の「知」の最先端に多くの来場者が触れる機会となった。

メインステージとなったアカデミーホールでは、冒頭、土屋恵一郎学長が登壇し「明治大学の先進的な研究に触れ、熱気に溢れた1日を過ごしていただきたい」とあいさつ。続いて、専門職大学院4研究科の合同企画「アカデミック×プロフェッショナル―理論と実務の架橋教育を求めて―」が実施された。ジャーナリストの池上彰氏による基調講演と、池上氏、土屋学長、さらに専門職大学院4研究科の研究科長を交えたパネルデイスカッションが行われた。

池上氏は、現在、多くの大学で教壇に立ちながらフリーランスのジャーナリストとして世界各国を渡り歩き、事件や出来事の現場に足を運んでいるエピソードを紹介。社会に出て経験を積んだ後だからこそ学び直すことに意味があると論じ、「学問的な根拠や、最新の学説を知識として身につけると、自分自身の仕事の本当の意味を知ることができる。視野が広がり、それが自信につながり、ひいては生きがいを感じられるようになる」と、社会人教育の意義を力説した。

デイスカッションでは4研究科の教育上の取り組みや、ねらいなどが熱く議論された。

土屋学長は、一つの境地に到達してからまた元の境地へ立ち戻ることを指す「却来」という禅の考え方を紹介し、「明治大学専門職大学院の多様な学びが、日本社会全体にとって有効な却来の場であり続けるよう努力し続けたい」と語った。さらに、会計専門職研究科長でもある吉村孝司専門職大学院長が「明治大学専門職大学院の教育を一言で表すのであれば、『プロフェッショナルの養成』につきる。ただひたすら邁進したい」と締めくくると、会場からは大きな拍手が送られた。

同会場では「数理科学する明治大学」も実施。「数理科学する心」と「折紙工学の世界」と題した二部構成で行われ、先端数理科学インスティテュートの副所長である萩原一郎研究・知財戦略機構特任教授らが登壇した。その他にも、「企業トップの考えるダイバーシティ・マネジメント」「マンガ・アニメ・ゲーム・特撮のミュージアム計画」「学生・POLARIS「ボラリス」・大学―若者は先端科学を超えるか―」など、文理の枠を超えた十九のテーマについて、本学の教員がコーディネーターとなりプログラムが実施された。

●ラグビー日本代表 田村選手が

母校でトークイベント

ラグビーワールドカップ二〇一九日本大会

でスタンドオフとして活躍し、日本代表史上初のベスト8へ大きく貢献した田村優選手（二〇一二年文学部卒）が十一月二十日、駿河台キャンパスを訪れ、明大生向けのトークイベントをリバティホールで開催した。

会場のリバティホールには約五百人の明大生が来場し、立ち見が出るほどの盛況の中、田村選手が大歓声に包まれて登場。はじめに、田村選手は先日の大会について、「ここでミスするとこの先ラグビーが注目されることは一生ない。今までのラグビー人生の中で一番プレッシャーがかかった試合だった」と激闘を振り返った。

さらに、田村選手と同じく本学ラグビー部出身で、お笑い芸人の笠原ゴーフォワード氏も登壇。現在も親交がある二人の、ラグビー部時代の思い出話など軽妙なやり取りに、会場から笑い声も上がりイベントは盛り上がった。

イベント後半には、体育会ラグビー部の武井日向主将（商4）が動画メッセージで登場。田村選手と同じ高校出身の武井主将は、動画内で「プレッシャーのかかる試合で、平常心でプレーする秘訣を」と質問すると、田村選手は「完璧な準備をすること以外、平常心でやる方法はない。やれることを全部やって、最後は楽しんで」とアドバイスした。

最後は明大生に向けて「自分が好きなこと

のためであれば何でも犠牲にできるし、嫌な仕事なら辞めればいい。好きなことに一〇〇%全力で頑張ってください」とエールを送り、締めくくった。

●公認会計士試験

明治大学から現役学生四十四人が合格

金融庁の公認会計士・監査審査会は十一月十五日、二〇一九年の公認会計士試験合格者を発表した。最終合格者数は千三百三十七人（前年千三百五人）で、合格率は一〇・七%（前年一一・一%）だった。今回合格した、明大出身の合格者は五十六人で、そのうち現役学生は四十四人（十二月十日現在、明治大学経理研究所調べ）。

この発表を受け経理研究所は十二月五日、明治大学の公認会計士養成機関である経理研究所特別会計研究室に所属し、現役合格した学生（商学部二十四人、政経学部六人、文学部一人、理工学部一人、経営学部九人、会計専門職研究科一人の計四十二人）を対象とした報奨金授与式を駿河台キャンパス・岸本辰雄ホールで執り行った。

授与式の冒頭、あいさつに立った山本昌弘経理研究所長（商学部教授）は、合格者にねぎらいの言葉をかけるとともに、「在学中に合格できたという時間的なメリットを生かし、もう一つ自分だけの強みを見つけて」と

激励した。合格者を代表して成瀬仁人さん（商2）に報奨金目録が、合格者一人ひとりに表彰状が山本所長から授与された。

合格者代表として登壇した岡田健太郎さん（理工3）は、経理研究所関係者や仲間らへの感謝の言葉と共に、「会計士試験に合格し、進路のさまざまな選択肢を得ることができた。自分自身の将来を決められるこの自由を大切にして、会計士としての人生を生きしていきたい」と力強く宣言し、合格の喜びを報告した。

●朝日教育会議二〇一九

「人間とロボット―融合の可能性」

明治大学と（株）朝日新聞社が共催する「朝日教育会議二〇一九」教育の力で未来を切り拓く」が十一月十三日、GINZA SIX地下三階にある観世能楽堂（東京都中央区）にて開催された。本イベントは、本学を含む十四大学・法人が参画し、「教育の力で未来を切り拓く」を全体テーマに据え、さまざまな社会課題解決を目指す連続フォーラムで、昨年立ち上がった。教育・研究・人材育成など、各大学が特色のある個別テーマを設定。その解決策について講演やディスカッションなどを展開し、成果を社会に発信していく。

人間の社会生活の根本をなす労働や移動、日常生活、遊びなどにロボットやAIが急速

に浸透している一方で、人間が肉体を操るからこそ個性や世界観が映し出される「芸術」は健在である。時代の節目の今、ロボットと人間の可能性や限界、共存について考えることを目的として、「人間とロボット―融合の可能性」を本学のテーマに、土屋恵一郎学長、黒田洋司教授（理工学部）と狂言師の野村萬斎氏が登壇した。野村氏は、祖父・故六世野村万蔵氏と父・野村万作氏に師事し、「狂言」ごさる乃座」主宰、世田谷パブリックシアター芸術監督、東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック開閉会式の総合統括を務めている。

第一部の基調講演は「狂言サイボーグ」と題し、野村萬斎氏が登壇。狂言師として日々意識していることや身体の動かし方など、「MANSAI解体新書」や「シン・ゴジラ」での経験も交え、紹介した。

第二部では、土屋学長と黒田教授がロボット工学研究の現在地と今後の可能性についてプレゼンテーションを行った。その中で黒田教授は、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の惑星探査ローバーの開発や「はやぶさプロジェクト」、自律型移動ロボットなどロボットのデモンストレーションも交えながら、自身の研究成果を紹介した。

休憩を挟み行われた第三部のパネルディスカッションでは、登壇者三人と（株）朝日新聞社

教育コーディネーターの井原圭子氏が第一部・二部を踏まえての感想や「人間とロボットの共存の可能性」、「ロボットの限界（人間だからこそこできること）」について、時折笑いも交じる和やかな雰囲気でも幅広い議論が展開された。定員四百二十人を大幅に超える約四倍の応募があつた中、当選した参加者は終始熱心に耳を傾けていた。

●「自己点検・評価報告書」を

評価委員会委員長に提出

土屋恵一郎学長は十二月十二日、自己点検・評価規程に基づき、「二〇一八年度自己点検・評価報告書」一式を柳谷孝理理事長へ提出した。

この報告書一式は、自己点検・評価全学委員会（委員長≪学長≫）が、二〇二一年度に受審予定の認証評価を見据えて、「全学的な教学マネジメント」や「三つのポリシー」に基づいた教育活動」の可視化を位置付けて作成した。

同報告書は、大学全体のPDCAサイクルを可視化するため、「二〇一八年度教育・研究に関する年度計画書の策定とその推進について（学長方針）」に基づいた教育活動の達成状況や改善方策を取りまとめている。また、中央教育審議会 大学分科会 教学マネジメント特別委員会で審議された「教学マネジメント

メント指針」も踏まえ、明治大学の二〇一九年度における教育活動の各種質保証の取り組みも取り上げている。

今後、一月二十九日に評価委員会（委員長≪理事長≫）を開催し、自己点検・評価の妥当性や客観性を評価するとともに、明治大学における内部質保証システムの有効性や学修成果の可視化の適切性などを議論し、「評価委員会による評価結果（大学への提言）」を取りまとめ、三月下旬に本学ホームページに公開する。

●「現代社会と向き合う国際化と多様性」

情報コミュニケーション研究科

創設一〇周年記念シンポジウム

明治大学大学院情報コミュニケーション研究科は十二月七日、シンポジウム「現代社会と向き合う国際化と多様性」を開催した。これは、同研究科の創設一〇周年を記念して企画されたシンポジウムで、第一部は「科学・社会・コミュニケーション」、第二部は「東アジアにおける拍舞の伝承と創造」をそれぞれタイトルにした二部構成で行われた。須田努情報コミュニケーション研究科長のあいさつから始まった第一部は、テーマIとして『フェイク』をめぐる市民リテラシーの確立に向けて」と題し石川幹人情報コミュニケーション学部教授をはじめとした教授陣や

大学院生がそれぞれの研究成果を発表したうえで、大黒岳彦同学部長の司会のもとパネルディスカッションを行った。テーマIIでは、「越境と家族―生活者視点の再考」として、根橋玲子同学部教授らのプレゼンテーションのうち、高馬京子同学部准教授の司会でパネルディスカッションが行われた。

第二部では「成均館大学大学院芸術学研究科との舞踊セッション」を副題に、波照間永子同学部准教授の司会で琉球舞踊「四つ竹」、韓国舞踊「牙拍舞」等の考察と演武の実演を行った。

来場者は現役生だけでなく、OB・OGも多数参加し、教授らとの久しぶりの再会に喜ぶ姿が多く見られた。また、本会はフェイクニュースや移民問題、舞踊等、同研究科の研究範囲の広さを改めて感じさせるシンポジウムとなり、参加者は熱心に耳を傾けていた。

●リバティアカデミー

開講二〇周年記念オープン講座続々開講

明治大学の生涯学習機関リバティアカデミーは、二〇一九年に開講から二十年目を迎えた。このことを記念して、どなたでも受講できるオープン講座を各キャンパスで開講。二〇一九年十二月までに各学部等を代表する旬な研究成果を踏まえた八つの講座を受講生に届けた。

駿河台キャンパスでは、十月五日に開講された「国宝・『漢委奴國王』金印真贋論争を最終する！」を皮切りに、十月二十六日には「登戸研究所と秘密戦・戦争の記憶を未来に活かすために」（講師・山田朗文学部教授）を開講。戦争の記憶を未来に生かし、これからの平和を考える契機として、陸軍登戸研究所と陸軍中野学校の歴史を取り上げ、解説した。

続く十一月二日には「日本企業のコーポレート・ガバナンスと企業戦略」（講師・西剛広商学部准教授）を開講。企業価値向上につながるコーポレート・ガバナンスのあり方を解説した。さらに、同キャンパスでは、一月十八日、「憲法を活かす」が開講された。江島晶子法学部教授、清野幾久子専門職大学院法務研究科教授が講師を務め、二十一世紀における憲法の役割について考察を行う。

生田キャンパスでは、十一月九日、「脳のなかの自己と他者」（講師・嶋田総太郎理工学部教授）を開講。嶋田教授は、脳損傷患者の症例研究など、最新の認知科学の知見を紹介した。続いて、十一月三十日には、「現在と未来の健康を支える生命科学・応用科学研究」（講師・長島比呂志農学部教授、相澤守理工学部教授）を開講した。再生医療に代表される先端治療技術による、身体の機能の改善・向上について解説が行われた。

和泉キャンパスでは、和泉図書館ホールを会場に、十一月九日、「コミュニケーションと社会的承認」（講師・宮本真也情報コミュニケーション・シミュレーション学部教授）を開講。宮本教授は、哲学、社会学の領域における「承認」について分かりやすく解説した。さらに、十一月三十日には同ホールで「健康寿命をのばすコツ」（講師・釜崎太法学部准教授、宮脇梨奈文学部専任講師）も開講。人生百年時代を心身ともに健康に生きるために必要な筋肉の作用や精神的な社会活動の重要性について考察。

中野キャンパスでは、十二月二十一日、「AI世代のデジタル教育」（講師・五十嵐悠紀総合数理学部准教授）を開講し、CGやデジタルデバイスの活用・向き合い方やプログラミング教育について解説した。

また、同キャンパスでは、一月十一日に「マンガ・アニメ・ゲーム・特撮アーカイブの現状と展望」（講師・森川嘉一郎国際日本学部准教授、氷川竜介国際日本学研究科特任教授）を、二月二十九日には「東京二〇二〇オリンピック・パラリンピックの視点」（講師・後藤光将政治経済学部教授）を中野区立図書館連携講座として開講する予定。

リバティアカデミーでは、これからも多くの方々の学びを支援していく。

●地域産学連携研究センター

台風19号で被災した川崎市内企業を支援

地域産学連携研究センターはこのたび、二〇一九年十月に発生した令和元年台風19号によって被災した川崎市内の企業を対象に、事業の再開・復興を支援する取り組みを開始した。

生田キャンパスが位置する川崎市内に事業所を有する企業の一部には、台風19号により高額機器の水没などの被害が発生した。そこで、同センターは、市内の罹災企業に対して、3Dプリンターなどの保有装置・施設の一部を二〇二〇年三月までの期間、無償提供することとした。

これまで同センターは、神奈川県域の中小企業への研究・技術開発支援やビジネスマッチングを行っており、いわゆる「大学発ベンチャー企業」も多数生み出してきた。また、明治大学と川崎市は二〇〇七年より連携・協力に関する基本協定を締結しており、これまで、新技術・新産業の創出支援や市民への生涯学習推進など、知的資源を生かしたさまざまな地域貢献活動を行ってきた。今回の支援もこの協定に基づくもの。

支援の内容や保有機器などに関する詳細は、センターのホームページに掲載されている。

(<https://www.meiji.ac.jp/ci/>)

● 体育会射撃部

学長・理事長を表敬訪問

全日本学生スポーツ射撃選手権大会第三十二回女子総合で昨年に引き続き連覇を果たした体育会射撃部が、十二月四日、土屋恵一学長、柳谷孝理事長らを表敬訪問した。

この日訪れたのは、森本怜花選手（商3）、高橋佳伶選手（国際日本3）、平田しおり選手（政経2）の三選手と、射撃部部長の小林尚朗商学部教授、佐橋朋木監督の五人。

選手らは全日本学生スポーツ射撃選手権大会第三十二回女子総合での連覇および平田しおり選手が東京五輪の日本代表に内定したことなどを報告するとともに、日ごろの大学からの支援に感謝の意を伝えた。

それを受けた土屋学長と柳谷理事長はそれぞれ、「全国大会優勝おめでとう。（平田選手について）現役の学生で五輪に出られることはすごいことだ。ぜひ頑張ってほしい」（土屋学長）、「明治大学を背負ってこれからも頑張っていてほしい」（柳谷理事長）と激励した。

◆ 駿台トピックス

● 第十六回連合駿台会ゴルフコンペを開催

今回より「連合駿台会ゴルフ会」と名称を変えたゴルフコンペが、十一月二十八日、東京ゴルフ倶楽部で二十三名の参加のもと開催

されました。天気が危ぶまれましたが、幸い雨には降られず無事に終了しました。

ダブルペリア方式による成績結果は、は山川博功会員（平成六年・文卒）、準優勝は東京ゴルフ倶楽部の会員でもある関根宏一会員（昭和三十九年・農卒）、第三位は園部洋士会員（昭和六十三年・法卒）で、陶芸家の武内裕会員作による優勝カップと陶器が副賞として贈られました。

ベストグロス賞は44・39で回った山口大介会員（平成十二年・政経卒）でした。

次回第十七回目になる春のゴルフ会は、四月三日、千葉県にある鷹之台カンツリー倶楽部で開催されます。



◆ 忘年会会景品寄贈者

十一月例会では、恒例のクジ引き大会を行いました。景品にご協力いただきました方々は、下記の通りです（五十音順・敬称略）。

相澤淳一、池田泰弘、泉山和久、井上欽也、浦川竜哉、大石哲也、大野正美、大前実之、岡本満夫、加賀美猛、金子圭太、狩野省

市、河村博、北島力三郎、木村健一、草木頼幸、沓掛英二、小島清治、兒玉圭司、小濱雅悦、佐藤仁、佐野公哉、佐野径、柴田清之、白井宏一、杉浦伸二、鈴木隆志、関根宏一、相臺志浩、武内裕、田中孝明、田村駿、樽見俊之、辻井知明、当山明彦、中野晴啓、長堀守弘、西澤豊、根岸伸明、畠中君代、幡谷公朗、馬場範夫、林威樹、平川清、古本英樹、水澤元博、宮下隆、柳谷孝、山口政廣、渡邊能宏

みなさま、ありがとうございました。

◆ 十一月例会出席者

相澤淳一、青木幹則、青柳勝栄、同ご友人、秋山隆敬、浅井宏、安達明正、阿部倫明、有賀隆治、飯田和人、池田勝也、石川かおり、石川均、石橋良一、泉山和久、伊東正博、同ご友人、井上欽也、同ご友人、猪田忠、伊原敏雄、岩田守弘、上田廣一、同ご友人、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、同ご友人、宇敷和章、薄井健二、同ご友人、内川雄一郎、梅津章、浦川竜哉、江崎徹、大石哲也、大竹夏夫、大野正美、大橋重男、大原幸男、大前実之、大村託現、岡本満夫、同ご友人、奥村勝広、鬼塚和也、小山哲郎、加賀美猛、勝保正義、金井健、金子圭太、狩野省市、栢森靖、荻部彰夫、河原章、川原均、河村博、神林光、北林幹生、同令夫人、清野明



明治大学の将来を支援する OBの経済人、法曹人、文化人が集う 「連合駿台会」

謹賀新年

今年は東京オリンピック・パラリンピックの年、明大生、明大OBの活躍を母校と共に、連合駿台会は徹底応援して盛り上げたいと思います。

皆さまにとりまして、この1年が良い年となりますようにご祈念申し上げます…
令和2年 元旦

連合駿台会 会長 **田村 駿** (1965年商学部卒)



今後のスケジュール

- 1月22日(水) 連合駿台会学術賞・学術奨励賞授賞式、駿台懇話会
- 2月5日(水) 「ビジネス勉強会&グルメ会」 場所:交詢社
- 3月18日(水) 3月度例会 講師:元・ミズノ代表取締役会長 水野正人氏



11月忘年会例
宇崎竜雄弾き語りライブ

資料のご請求はこちらまで

連合駿台会事務局

TEL : 03-3296-4747 FAX : 03-3296-4748 ホームページ : <http://www.rengosundaikai.jp>
Email : rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp

★明治大学広報(1月1日号)に掲載された大学への支援広告。今後も2か月に1回掲載していく予定です。

- 男、草木頼幸、小井戸亮文、古賀慎一郎、小島清治、兒玉圭司、小濱雅悦、小山修、小山有彦、同ご友人、根田哲雄、根田吉雄、近藤健、齋藤弘之、齋藤柳光、佐々木伸一、佐藤和正、佐藤健、佐藤仁、佐野径、澤野太嘉嗣、柴田清之、白井宏一、同ご友人、杉浦伸二、鈴木絃一、鈴木隆志、関根均、関根宏一、瀬戸正道、相臺志浩、同ご友人、高木明裕、同令夫人、高見克司、田口幸隆、同ご友人、武内裕、武田宣夫、田中孝明、谷原誠、田村駿、樽見俊之、辻井知明、寺本裕明、天童美德、同ご友人、当山明彦、徳丸平太郎、富井征也、富水流孝二、中川敏洋、中里猛志、中根武、中野晴啓、中村康一、中村豊、二井康夫、西澤豊、根岸伸明、萩原裕次、長谷川進一、長谷川俊也、畠中君代、埴英幸、羽生健一郎、馬場範夫、林威樹、原田榮、正田邦雄、日高憲三、平川清、平田静子、福田和彦、藤代耕一、古本英樹、堀越孝、前川一郎、眞壁八郎、楨野泰、同ご友人、松川徹、松崎優子、摩尼和夫、三浦栄治、水谷浩、美濃和男、宮入知喜、宮下隆、宮本浩二、向井眞一、向殿政男、村岡健、村山友彦、室井恵明、森一朗、同ご友人、柳谷孝、山上雅隆、山口大介、山口政廣、山田朝彦、山田勝、山田幸夫、山端康幸、弓野理恵、吉田光一郎、吉田重郎、若林紀生、同令夫人、渡邊一治、渡邊健三、同令夫人

【編集後記】

子年は節目となる十二支の一番目。東京はいよいよ二度目のオリンピックを迎え、明治大学も校歌制定一〇〇年、そしてプレ創立一四〇周年に入ります。オリンピックは新聞時代に夏冬八大会に関わってききましたが、今回は初めて観客として熱狂できそうです。そして日の丸はもちろんです、明治大学に縁ある選手が登場すればM字の校旗を振りまくるつもりです。

私ごとですが、いつになく明鏡止水で年初を迎えられました。昨秋、生まれて一歳半まで暮らした中国の錦州市や、引き揚げ船に乗った葫芦島(ころとう)などを訪ねる宿願を果たすことができたからかもしれません。実のところ、記憶などはなく、頼みにしていた両親が早世してしまい、ほとんど諦めかけていた自分探しのセンチメンタルジャーニーでした。ところが、母校の偉大な先達の縁が隠していた背中を押してくれたのです。

まず、ここ数年、校友会史の編纂委員長を務めて数多の資料に目を通す中で、百万余邦人の引き揚げに奔走してくださった方がなんと丸山那雄さんという明治大学出身の大先輩で、後年、教授にもなっておられたことを知りました。いわば命の恩人です。しかも、直後にその偉業がNHKでドラマ化され、明大健児の意気を天下に知らしめてくれました。

さらに、奇しくもその校友会史に揮毫いただいた村山富市先生から二〇〇六(平成十八)年に葫芦島が一望できる丘に引き揚げ者の記念碑を建立してください、それまでままならなかった私たちの再訪を今は温かく迎え入れてくれるようになっていたこともうかがうこともできたのです。

もう迷わず旅立ちました。そしてその時、三四半世紀も抱え込んできた里心が一気に弾け、恥ずかしながら涙しました。

想いを街頭詩人が氏名を以て詠んでくれました。
齋在春光中 藤結立奇峰 柳色清波超 光華映晴空
わが愛する母校に感謝です。(齋藤柳光)